

2016年7月号 FP武蔵野グループ



「人生のヒント」

河村富夫（CFP 認定者・1級FP技能士）

1. はじめに

皆さんは日頃、日常の生活をするに当たって、何処から、そのより所を得ていますか？ご家族ですか、ご自身のご経験や座右の書からですか？

そんな大げさでなくとも、メールが日に何十通、何百通来るご時世では、その取捨選択だけでも大変ですね。

メールも、経緯からそれなりに判断していると思います。

私は鳥飼重和弁護士の「鳥飼サンタの人生の種まき」を毎週5年位前位から受信し、3年前から一読後、気に入ったものを識別して管理しています。

今迄何気なく過ごしてきたものに、こんな見方が有るんだ、や立派な人はこう言う風に努力しているのだ、と知らされることが多々あります。

その中から、さらに気に入った5サンプルを偏見で選び「人生のヒント」として、ご紹介させていただきます。なお、鳥飼重和弁護士について詳細には知りませんが、数年前、弁護士業で前年のトップ収入だった記事を日経紙で読んだ記憶が有ります。参考 <http://torikainikki.cocolog-nifty.com/about.html>

なお、この転載の件、の許可を2016・5お願いしまし、鳥飼重和弁護士から快く快諾を得ましたことを書き添え致します。又FBでの友達申請した処、ご承認を得ました。

2. アクセスとサンプル

1) アクセス

<https://www.torikai.gr.jp/mailm>

表紙の右下に「メルマガ登録」欄が有りますので、ご希望が有りましたら、ここから登録、削除をお願いします。

2) サンプル

鳥飼サンタの人生の種まき便 ④ vol.307 2015.8.26

『自分こそ奇跡の人』

- ◇ “自分こそ奇跡の人である”、その真実に気づいてほしい。
そのことに気づき、感謝をすると、良縁と幸運に恵まれる。
良縁と幸運に恵まれれば、必然的に幸福と成功が訪れる。
先日、600人超の女性を前に、講演で述べた要旨である。
人は、ヘレン・ケラー女史を奇跡の人という。
そのヘレン・ケラーは、中村久子女史を真の奇跡の人という。
この2人の女史が奇跡の人であることは確かである。
ただ私が言いたいのは、平凡な我々も奇跡の人であるということだ。

- ◇ ヘレン・ケラーは、見えない、聞こえない、話せないという3重苦を克服し、立派な社会活動をしたことは、奇跡の人として値する。
高山市出身の中村久子女史は、両手両足を切断した不自由な中で、障害者として国からの保障を受けず、自立した生涯を送った。
全国各地で講演し、多くの人々に生きる力を与えた奇跡の人である。
その生きる基礎に、生かされていることへの深い感謝の念がある。
「無手無足は、私が仏様より賜った身体です。この身体があることで、私は生かされている喜びと尊さを感じています」。

- ◇ 我々の多くは、3重苦もなく、両手両足もある。
奇跡の人である2人の女史たち以上に恵まれているといえよう。
であるならば、我々も、奇跡人といえるのではないだろうか。
しかも、人として生まれる確率は250兆分の1という奇跡そのもの。
人は心で生きるものであるから、人として生まれた奇跡を素直に認め、神仏に感謝、両親に感謝、社会に感謝して生きるのが素直な生き方。
この素直な生き方が、良縁と幸運に恵まれた人生となる。
その意味で、人生はありがたいものであり、シンプルなものである。

◆鳥飼重和オフィシャル Facebook ページ

<https://www.facebook.com/shigekazu.torikai>

鳥飼サンタの人生の種まき便 ⑤ vol.306 2015.8.19

『人生を左右する言葉の理解』

◇ 一. 世の中で一番楽しく立派な事は

一生涯を貫く仕事を持つと云う事です

一. 世の中で一番尊い事は

人の為に奉仕して決して恩にさせない事です

一. 世の中で一番美しい事は

すべてのものに愛情をもつ事です

以上は、福澤諭吉の作といわれている「心訓七則」である。

楽しく立派、尊い、美しいというプラス面を述べた3つを取り出した。

深く大きな愛情が美しい奉仕の心を生み、

一生を貫く仕事を持つことが立派な人生を築く。

◇ お盆休み明けの今週から忙しくなる人が多いであろう。

そんなとき、先人の教えに触れてみるのもいいものである。

「ならぬもの十訓」から、重要だと思うものを抜き出してみた。

1. 忘れてはならぬもの「感謝」

6. 失ってはならぬもの「信用」

8. 持ってはならぬもの「ねたみ」

9. 捨ててはならぬもの「義理人情」

真に感謝の心があれば、心は広くなり、妬みは消え、

義理を守り、人情に厚くなり、社会的な信用を築ける。

感謝の人生における意味を理解した人生は豊かになる。

◇ 義は利の元なり、という言葉がある。

義が先で、その結果が利になる、ということである。

義は信用を生み、信用が持続的な利益を生み出す。

義は誠実に通じ、それが経営では、経営理念となり、

持続的成長の基礎となる大きな利益を生むということである。

言葉は、人間の行動の源泉であり、行動の結果を方向付ける。

言葉の持つ意味を十分に理解し、行動につなげたいものである。

鳥飼サンタの人生の種まき便 ⑥ vol.301 2014.7.8

『もっとできることがあるんじゃないの』

- ◇ 人間とは実に奥深い存在である。
換言すれば、不可能を可能にする存在であるといえる。
アメリカに、76歳でマラソンを始めた女性がいた。
なかなかないことだが、決して不可能ではない。
この女性、92歳でフルマラソンを完走したという。
そのタイムは7時間24分36秒というから驚く。

- ◇ この女性の名前は、ハリエット・トンプソンさん。
トンプソンさんは、ゴールに入った後で、次のように語った。
「私は平気よ。みんな、私を甘やかしすぎなのよ」。
わが身を振り返ると、とても耳の痛い言葉であるが、
素直に考えると、本当のことを語っている。
92歳の母親や祖母に、次のように叱られたと思いたい。
「あんた、自分を甘やかすことは止めなさい。
あんたには、もっとできることがあるんじゃないの」。

- ◇ この言葉は、青少年にも、壮年や老年にも効き目がある。
先人を探せば、自分を甘やかさず、事を成した人がいる。
私の人生のモデルである北条早雲も、その一人である。
平均寿命が尽きている60歳近くで小さな城の城主となる。
そこから、北条早雲の面目躍如の活躍が始まる。
87歳で死亡するまでに、後北条家約100年の基礎を築いた。
年齢、学歴、職歴、環境などは、できない理由にはならない。
なんでもいい。できることを捜し、取り組んでいただきたい。

鳥飼サンタの人生の種まき便 ⑧ vol.278 2015.1.21

『目に見えない夢に狂おう』

- ◇ 夢といえば、ディズニーランド。
そこはまさに夢と冒険とファンタジーの世界。
この世界を創ったウォルト・ディズニーは言う。
「夢を追い続ける勇気さえあれば、全ての夢は必ず実現できる。
忘れないで欲しい。すべて1匹のネズミから始まったことを」
「夢を叶える秘訣は、4つある。
好奇心、自信、勇気、継続である」
本来の人生は夢を実現するための過程なのではないだろうか？

- ◇ 宗教改革をしたマルティン・ルターも言っている。
「この世を動かす力は希望である。
やがて成長して果実が得られるという希望がなければ、
農夫は畑に種をまかないでしょう」
ヘレンケラーも語っている。
「この世で一番哀れなことは、
眼は見えていても未来の『夢』が見えていない人です」
希望という夢を見ることの特権こそが自由の意味であろう。

- ◇ 志士たちが命がけで生きた幕末において
情熱の種をまいた至誠の人・吉田松陰の言葉がある。
「夢なき者に理想なし
理想なき者に計画なし
計画なき者に実行なし
実行なき者に成功なし
故に、夢なき者に成功なし」
「諸君、狂いたまえ」
自由な時代の今こそ、常識を超える夢に狂おう。

『早すぎるか、少し早目なのか』

- ◇ ある靴メーカーのセールスマンに関する有名な話がある。
アフリカに進出しようと2人の社員をアフリカに派遣した。
当時、アフリカのその土地では、すべての人が裸足だった。
まだ、靴を履く文化がなかったのである。
2人の社員の報告は、全く正反対のものだった。
1人の社員からは「だめです。誰も靴を履いていません」。
もう1人からは「大市场です。まだ誰も靴を履いていません」。

- ◇ 同じものを見ても、受け止め方が正反対になることは多い。
受け止め方の基準をどこに置くかで、結論が分かれるからだ。
裸足の文化という現実を重視すれば、売れないが結論になり、
靴文化の影響力を重視すれば、売れる可能性が結論になる。
しかし、どちらの結論が正しいかは、そのときには分からない。
早すぎれば、売れないが正解、少し早めの時期なら売れるが正解。
結論の正しさは、時代環境や文化の進展度に影響されるからだ。

- ◇ 私も、早すぎないか、少し早めなのかの問題に挑戦している。
税務調査段階では、ほとんどの場合には弁護士がいない現実がある。
この現実から、税務調査段階で弁護士業務はない、が常識になっている。
これは未開の地だったアフリカ人が皆、裸足だったのと同じである。
この未開の税務調査段階での靴に相当するのが弁護士である。
この未開の領域に、税務に精通した弁護士を入れれば、
我々の経験上、税務調査を恐れず、安心して適切に対応できる。
そのため、靴となる弁護士を育成する「税務調査士資格認定」を始めた。
これが早すぎるか、少し早目なのか、客観的には不透明である。
しかし、この未開のつぼみが花開く日は遠くない、そう信じている。
